平成22年度事業報告

1　事 業 概 要

(1)　平成 22 年の日本経済は、夏場までは上向きの動きが続いたものの、秋口から円高の急進やエコカー補助金などの政策効果の息切れや反動により、景気は足踏み状態となったが、平成 23 年に入り引き続く新興国の経済成長や米国経済の復調の兆しなどにより、緩やかな回復軌道に乗るとの見方が拡がっていた。

しかしながら、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、そうした見方は大きく覆り、景況感は急速に悪化をし、今後の見通しは困難な状況となった。

(2)　一方で、平成22年度は当協会組織にとっては、画期的ともいえる1年となった。

当協会は、平成22年6月3日の通常総会で決定をした新公益社団法人移行に関する具体方針に基づき、平成 22 年 9 月 10 日に神奈川県へ公益社団法人認定申請を行った。途上、県当局の指摘により臨時総会の開催を余儀なくされたが、ようやく平成23年3月22日の第32回神奈川県公益認定等審議会の議題となり、同日付けで公益認定基準に適合するとの答申が行われ、3月24日に神奈川県より公益社団法人としての認定書を受領した。そして、平成 23 年 4 月 1 日に「公益社団法人神奈川労務安全衛生協会」として新たに再出発ができたのは、多岐にわたる認定申請手続き等に対して各会員そして各支部の特段の理解と協力によるものであり、当協会の組織力が発揮されたものといえる。

(3)　また、当協会の会員数については、事業所の閉鎖、統廃合や経費節減などの理由による退会の流れが止まず、平成22年度末の会員事業場数は4,170事業場（前年度末比113事業場減）となった。従業員数についても、約612,600名（前年度末比 18,600 名減）と大幅に減少した。協会として、こうした動向に歯止めをかけるために、本部・支部一体となった会員事業場の維持に止まらず、新規会員事業場の加入促進が急務である。

(4)　協会の主要事業である技能講習等については、経済情勢の影響を受け、特別教育で＋49 名、安全管理者選任時研修等で△170 名、作業主任者・技能講習で△1,566名などで、全体として19,268名（前年度比1,848名減）となった。平成19年度の実績が24,617名であることから、この3年間で5,349名の受講者数の減少となっており、平成 20 年 9 月のリーマンショック等の影響もあったが、事業運営に与える影響は大きく、受講生の増加に努力するとともに、注意深くその動向を注視しなければならない。

また、このような事業環境の下で、当年度決算は今年度からの技能講習受講料体系の見直しなどにより前年度の大幅な赤字決算より改善はしたものの、1,844 万円の減価償却を吸収できず、1,117 万円の正味財産の減少となった。

(5)　平成 22 年の神奈川県における労働災害は、休業 4 日以上の死傷者数は 6,574 名と前年度に比べて 359 名 5.8%増加し、死亡災害については 52 名と前年度と同数である。この数値は、第 11 次労働災害防止推進計画の目標達成に向けたさらなる努力が必要であることを示唆している。

協会専門委員会では近年の労働災害発生状況を踏まえて、事業内容・教育手法の検討を行い、セミナー・技能講習のカリキュラム・テキストの見直しや、フォークリフト安全運転技能および救急法の競技大会を開催し、労働災害防止の啓発に努めた。

労働衛生関係では高齢化やストレス増加、そして生活習慣の変化などの要因による、健康診断結果の有所見者が 52.8%に達し、また、過重労働による脳・心臓疾患の労災請求・支給認定件数の増加が進んできている。協会では専門委員会を中心にセミナー・講習を開催したほか、神奈川産業保健推進センター、神奈川健康づくり推進会議と連携しＴＨＰの普及啓発に努めた。

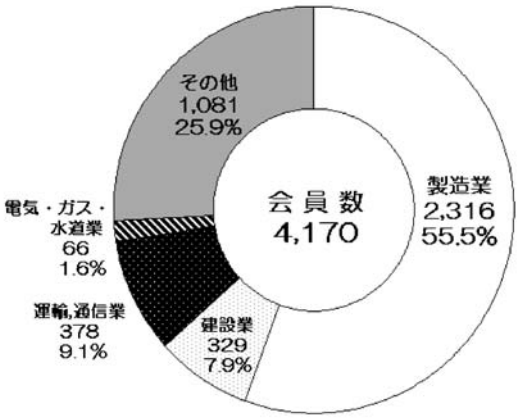
(6)　また、神奈川労働局からの受託事業である「快適職場形成促進事業」および「一般事業主行動計画策定等支援事業」を推進してきた。さらに、中央労働災害防止協会神奈川県支部として「過重労働による健康障害防止のための自主的改善事業」「団体安全衛生活動援助事業」「メンタルヘルス対策事業」、ならびに全国労働基準関係団体連合会神奈川県支部として「新規起業事業場就業環境整備事業」などを推進してきた。

また、人事労務セミナーや改正労働基準法の施行に対応するため各支部の協力のもとにセミナーを開催した。

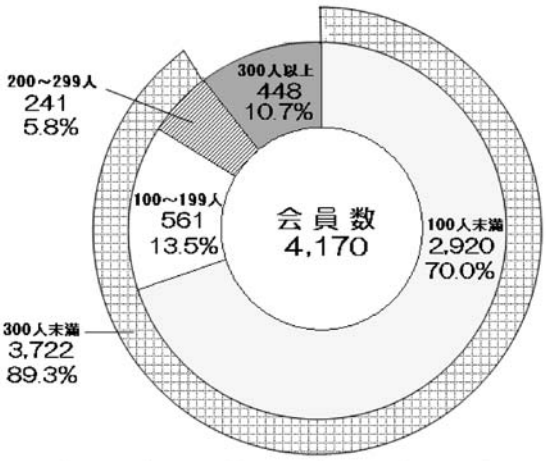
平成 23 年 3 月末現在会員数および会員構成

支部名	会員数	支部名	会員数
川崎北	226	横須賀	258
川崎南	368	藤沢	360
鶴見	235	平塚	410
横浜北	456	小田原	328
横浜南	310	相模原	409
横浜西	280	厚木	530
		計	4,170

1. 業種別会員数



2. 規模別会員数



2　主要事業報告

【1】技能教育関係

講　習　名			回数	人員
技能講習等	作業主任者技能講習	プレス機械	6	303
		乾燥設備	4	335
		足場の組立て等	6	444
		建築物等の鉄骨の組立て等	1	19
		木材加工用機械	1	42
		はい	3	199
		鉛	1	58
		酸素欠乏・硫化水素危険	23	1,804
		特定化学物質及び四アルキル鉛等	23	1,650
		有機溶剤	26	2,190
		石綿	3	124
	技能講習	玉掛け	36	2,489
		フォークリフトＡ・Ｂ	11	311
		フォークリフトＣ・Ｄ	72	1,609
		ガス溶接	16	754
		床上操作式クレーン運転	12	777
		高所作業車運転	4	164
	安全管理者選任時		29	1,160
	安全衛生推進者養成		16	583
	衛生推進者養成		5	209
小　計			298	15,224
特別教育	動力プレスの金型等の業務		6	167
	電気取扱業務		5	378
	クレーンの運転の業務		11	797
	研削といしの取替え等の業務		8	579
	アーク溶接等の業務		6	367
	フォークリフト運転の業務		3	82
	産業用ロボットの業務		2	134
	第二種酸素欠乏危険作業		4	136
	ダイオキシン類作業		3	149
小　計			48	2,789

講　習　名		回数	人員
免許取得	クレーン・デリック（クレーン限定）運転士	1	11
養成講習	第一種衛生管理者	7	487
	第二種衛生管理者	4	118
	エックス線作業主任者	2	111
小　計		14	727
講　習	局所排気装置等定期自主検査者	6	306
小　計		6	306
教育等	安全管理者（定期・随時）	1	30
能力向上	衛生管理者（定期・随時）	1	30
	フォークリフト運転業務従事者	2	35
小　計		4	95
救急法	基礎 ＋ 短期	4	127
小　計		4	127
計		374	19,268

【2】研修会関係

研　修　会　等	回数	人員
火災爆発防止講習会	1	126
リスクアセスメント実務研修会	1	32
安全衛生セミナー	1	29
安全衛生レベルアップ教育	1	91
卸売小売業労務安全衛生管理研修会	1	27
産業保健研修会	1	60
自殺予防セミナー・ＴＨＰ研修会	1	82
労働衛生工学講座	2	103
人事・労務管理実践セミナー	4	174
一般事業主行動計画策定のための講習会	4	348
新規起業事業場就業環境整備事業（労務管理基礎講座）	2	39
計	19	1,111

【3】行事・競技大会関係

① 神奈川労務安全衛生大会

平成 22 年 10 月 22 日　横須賀芸術劇場　参加者 465 名

来賓挨拶	神奈川労働局長	及川　桂
〃	かながわ労働センター所長	清田　昭久
〃	横須賀市長	吉田　雄人
〃	中央労働災害防止協会常務理事	西本　徳生

第一部　表彰式（被表彰者氏名は 10 頁参照）

・労務安全衛生功労賞　51 名

・支部別安全競争入賞　4 支部

第二部　特別講演　京都大学大学院 人間・環境学研究科
応用生理学研究室 教授　森谷　敏夫

② 労務安全衛生管理夏季講座

平成 22 年 7 月 14 日　ホテル横浜ガーデン　参加者 71 名

来賓挨拶	神奈川労働局労働基準部長	小林　泰樹
特別講演	神奈川労働局労働衛生課長	福島　路子
分 科 会	2 分科会に分かれて研究討議	

③ 快適職場・健康づくり神奈川大会

平成 22 年 9 月 7 日　横浜市開港記念会館　参加者 153 名
（内協会関係 69 名）

来賓挨拶	神奈川労働局労働基準部長	小林　泰樹
事例発表	㈱富士防　事務管理部次長	小川　洋一
	中外製薬㈱　鎌倉事業所長	木股　宏章
特別講演	㈱ニュートリート　代表取締役	佐野　喜子

④ 神奈川衛生管理者交流会

平成 22 年 11 月 10 日　ホテル横浜ガーデン　参加者 42 名

⑤ フォークリフト安全運転技能競技大会

平成 22 年 9 月 4 日　伊勢原フォークリフト教習所　参加者 43 名
（内協会関係 23 名）

⑥ 救急法競技大会

平成 22 年 9 月 14 日　神奈川県建設会館　参加者 12 名

【4】刊行物関係

① 機関誌「労務安全衛生かながわ」12 回発行（1 回発行部数約 9,000 部）

② 2011 年版労務安全衛生手帳 3,541 部

③ 各種テキスト改訂

【5】部会・専門委員会活動

企画部会

協会事業の運営を図るための審議をし、事業の推進に大きな役割を果たした。

広報委員会

協会機関誌“労務安全衛生かながわ”を通巻 734 号～745 号発行した。

編集にあたっては、読者に「読まれ」「親しまれ」「役立つ」を目指し、内容も神奈川労働局の広報記事や委員会、各支部会員の情報記事等を掲載した。

教育委員会

労務安全衛生管理に関する諸問題を中心に経営者、管理者、監督者などを対象に各種研修会を企画・実施し、時勢の変化に対応すべく教育内容のさらなる充実を図った。

「『効果的なリスクアセスメントの推進について』～推進にあたっての実務上のポイント～」のテーマで夏季講座第 1 分科会を労務管理委員会と合同で担当した。

労働災害統計委員会

半期毎の災害統計を集約し、分析結果を再発防止に活かすべく協会機関誌に掲載するとともに、支部別安全競争入賞支部を表彰した。

傷病統計委員会

年 2 回（7 月、2 月）の傷病休業統計を集約し、分析結果を協会機関誌に掲載し、会員事業場の産業医および産業保健従事者等、衛生管理向上のデータとして活用した。

労務管理委員会

労働環境の確保・向上への講座を通じ、労働条件の改善、労働福祉対策など労務・安全管理対策への啓発事業を推進した。

また「第 11 次労働災害防止推進計画」の目標に向けて、今後の安全衛生活動へも活かす機会となった。

「『効果的なリスクアセスメントの推進について』～推進にあたっての実務上のポイント～」のテーマで夏季講座第 1 分科会を教育委員会と合同で担当した。

プレス委員会

委員が「プレス機械作業主任者技能講習」「プレス金型特別教育」の講師を担当した。

「プレス機械作業主任者技能講習」試験問題の見直しを行った。

クレーン委員会

委員が「床上操作式クレーン運転技能講習」「玉掛け技能講習」「クレーン運転特別教育」の講師を担当した。

床上操作式クレーン運転技能講習用テキストの見直しを行った。

溶接委員会

委員が「ガス溶接技能講習」「アーク溶接特別教育」の講師を担当した。

アーク溶接特別教育用テキストの見直しを行った。

「ガス溶接技能講習」受講者アンケートを行った。

電気委員会

委員が「電気取扱特別教育」の講師を担当した。

「感電の基礎知識と電気火花（アーク）の体感」を協会機関誌に掲載した。

火災爆発災害対策委員会

火災爆発防止講習会を「静電気による火災爆発防止対策の基礎と事故事例」のテーマで開催した。

委員が「乾燥設備作業主任者技能講習」の講師を担当した。

フォークリフト委員会

「フォークリフト安全運転技能競技大会」を陸災防と合同で開催した。

委員が「フォークリフト運転技能講習」「フォークリフト運転特別教育」「フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育」の講師を担当した。

フォークリフト運転技能テキストの見直しを行った。

一般機械災害対策委員会

在来型災害（はさまれ、巻き込まれ、切れ、こすれ）防止対策の事例研究を行い、その結果を協会機関誌に掲載した。

高所作業対策委員会

委員が「高所作業車運転技能講習」の講師を担当した。

保健対策委員会

労働衛生専門職種の総合力が発揮されるよう関連各専門委員会と連携協力に努め、産業保健各分野の一層の充実に寄与した。

委員が「第一種衛生管理者養成講習」の講師を担当した。

労働衛生技術委員会

「知っておきたい化学物質管理の実務」をテーマに講習会を開催した。

また、「職場における化学物質管理の進め方」をテーマに労働衛生工学講座を開催した。

委員が「局所排気装置等定期自主検査者講習」「ダイオキシン類特別教育」の講師を担当した。

衛生管理推進委員会

「衛生管理者の役割」のテーマで衛生管理者交流会を開催し、衛生管理者の役割についてグループディスカッションを中心に研修した。

「メンタル疾患防止と対応」のテーマで夏季講座第 2 分科会を産業保健活動委員会と合同で担当した。

神奈川産業保健推進センターと共催で、衛生管理実務講座を開催した。

委員が「衛生管理者能力向上教育」の講師を担当した。

産業保健活動委員会

産業保健職・人事担当者等を対象に、発達障害への理解を深めるため「発達障害（アスペルガー症候群など）への正しい理解と対応について」と題し、専門家との連携に参考となる研修会を開催した。

産業保健活動を広く進めるため、各支部内での組織化を進めた。

「メンタル疾患防止と対応」のテーマで夏季講座第 2 分科会を衛生管理推進委員会と合同で担当した。

救急法指導委員会

「救急法（基礎+短期）講習」および「救急法競技大会」を開催し、救急法の普及と救急救命・応急手当等の技術向上に努めた。

委員が「酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者」の救急法実技の講師を担当した。

卸売小売業委員会

卸売小売業におけるより良い労務安全衛生管理を進めるために、店長・マネージャー・労務安全衛生担当者などを対象とした「労務安全衛生管理研修会」を開催したほか、店舗における日常の労務安全衛生管理活動の活性化について情報の交換に努めた。

3　会 議 報 告

【 通 常 総 会 】

平成 22 年 6 月 3 日、横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズにおいて通常総会を開催した。議案は、すべて原案どおり承認された。

【 臨 時 総 会 】

平成 22 年 12 月 2 日、ホテル横浜ガーデンにおいて臨時総会を開催した。議案は、すべて原案どおり承認された。

【 理 事 会 】

第 101 回	平成 22 年 4 月 27 日	第 102 回	平成 22 年 6 月 3 日
第 103 回	〃 11 月 12 日	第 104 回	〃 23 年 2 月 18 日

【 副会長会議 】

第 1 回	平成 22 年 8 月 24 日	第 2 回	平成 22 年 10 月 22 日
第 3 回	〃 23 年 1 月 27 日	第 4 回	〃 23 年 3 月 17 日

【 部　　会 】

企画部会

第 1 回	平成 22 年 6 月 24 日	第 2 回	平成 22 年 8 月 30 日
第 3 回	〃 11 月 12 日	第 4 回	〃 23 年 2 月 8 日

新公益法人検討部会　第 5 回　平成 22 年 4 月 15 日

【支部連絡会議】

第 1 回	平成 22 年 5 月 13 日	第 2 回	平成 22 年 7 月 16 日
第 3 回	〃 9 月 10 日	第 4 回	〃 11 月 1 日
第 5 回	〃 12 月 10 日	第 6 回	〃 23 年 2 月 25 日
第 7 回	〃 23 年 3 月 23 日		

【 そ の 他 】

神奈川快適職場推進協議会　平成 22 年 5 月 11 日

【 関係団体会議 】

1. 神奈川労働局	神奈川メンタルヘルス対策推進連絡会議
2. 中央労働災害防止協会	総会・理事会・業務連絡会議
3. 全国労働基準関係団体連合会	総会・理事会・業務連絡会議
4. 神奈川産業保健推進センター	産業保健推進センター運営協議会
5. 神奈川県交通安全対策協議会	
6. 神奈川健康づくり推進会議	

4 表　　彰

(1) 協　会

平成 22 年度神奈川労務安全衛生大会の席上、次の方々および支部を表彰した。

＜労務安全衛生功労賞＞

藁科　淳　生化学工業㈱久里浜工場
井上　晴之　サントリービジネスエキスパート㈱商品開発センター
中村　直樹　㈱ミツトヨ
大倉　秀章　キヤノン㈱小杉事業所
岡　文雄　日油㈱川崎事業所
森脇　康行　東洋ガラス㈱川崎工場
武田　純一　味の素㈱川崎事業所
太田　真理　㈱東芝研究開発センター
佐藤　一彦　東亜石油㈱京浜製油所水江工場
横内　貞明　旭化成ケミカルズ㈱川崎製造所
浦崎　茂広　ユニバーサル造船㈱京浜事業所
小山　俊雄　日揮工事㈱
薄　ひとみ　鶴見曹達㈱
柴屋　豊　パナソニックモバイルコミュニケーションズ㈱
大友　進一　日産宝友会
杉本　法広　相鉄ホールディングス㈱
長谷川　智　JXエネルギー横浜安全衛生協議会
川俣　明　JXエネルギー横浜安全衛生協議会
田中　衛　電源開発㈱磯子火力発電所
山崎　享　㈱オーバル横浜事業所
徳永　儀　日本発条㈱
田村　良信　三菱重工業㈱原動機事業本部 横浜製作所
松本　弘　㈱THN経営・安全・環境コンサルティング
竹内　敏美　㈱日産クリエイティブサービス
高橋　義明　ジョンソンコントロールズ㈱追浜工場
西村　学　京浜発條㈱
住友　康人　敷島製パン㈱パスコ湘南工場
三木　一宏　キーパー㈱
成田　公貴　横浜ゴム㈱平塚製造所
佐藤　良治　第一三共プロファーマ㈱平塚工場
松江　隆己　日本製紙クレシア㈱開成工場
青木　敏雄　小田原瓦斯㈱
鎌田　光郎　富士フイルム㈱神奈川工場
太田　吉昭　わかもと製薬㈱相模大井工場
藤原　幸雄　菱重エステート㈱相模原支社
宮崎　猛　アイダエンジニアリング㈱
金沢　文男　日産自動車㈱SCM本部サービス部品物流部
三浦　修　三菱重工業㈱汎用機・特車事業本部
徳永　龍次　岩井機械工業㈱
篠崎 眞由美　㈱リコー厚木事業所
大塚　誉　プライムデリカ㈱厚木工場
佐川　文夫　トピー工業㈱綾瀬製造所
宮本　輝和　住友電気工業㈱横浜製作所
荻野　恭一　㈱東芝浜川崎工場
三宅　淳巳　横浜国立大学大学院 環境情報研究院
舩崎　春美　個　人
菊池 孝三郎　個　人
小川　恭二　個　人
平　貢秀　日本冶金工業㈱川崎製造所
西田　守　JFEスチール㈱東日本製鉄所
久保田 豊彦　㈳神奈川労務安全衛生協会横浜北支部

＜支部別安全競争入賞＞

優　勝　㈳神奈川労務安全衛生協会藤沢支部
準優勝　㈳神奈川労務安全衛生協会横浜南支部
努力賞　㈳神奈川労務安全衛生協会川崎南支部
向上賞　㈳神奈川労務安全衛生協会鶴見支部

(2) 厚生労働省

① 厚生労働大臣表彰および顕彰

厚生労働大臣　奨励賞

㈱ニコン 相模原製作所

㈱山武 藤沢テクノセンター

厚生労働大臣　功績賞

井上　隆　　丸全昭和運輸㈱ 相談役

露木　直義　　露木建設㈱ 代表取締役会長

安全優良職長厚生労働大臣顕彰

秋葉　勝好　　住友電気工業㈱横浜製作所

小林　千明　　㈱鈴幸製作所

② 神奈川労働局長表彰

神奈川労働局長　優良賞

京セラケミカル㈱川崎工場

パナソニックＳＮグラフィックス㈱

神奈川労働局長　奨励賞

旭ダイヤモンド工業㈱玉川工場

㈱幸楽苑 小田原工場

㈱太洋 太洋東和事業部 江ヶ崎工場

日本ゼオン㈱総合開発センター

日本通運㈱横浜国際ターミナル支店

フォルム㈱横浜工場

㈱武蔵野 横浜工場

㈱山武 伊勢原工場

小田急電鉄㈱大野電車区

㈱リコー テクノロジーセンター

㈶電力中央研究所 横須賀運営センター

神奈川労働局長　功績賞

今村　彬　　川崎労務管理協会 前会長

小谷　一雄　　陸上貨物運送事業労働災害防止協会神奈川県支部
川崎南分会 前会長

筒井　康之　　陸上貨物運送事業労働災害防止協会 神奈川県支部長

仲村　準　　㈱ブリヂストン横浜工場 横浜健康管理センター所長

神奈川労働局長　安全衛生推進賞

飯 島　輝 夫　　労災防止指導員
今 泉　吉 男　　労災防止指導員
加 藤　重 徳　　労災防止指導員
二 宮　圭 介　　陸上貨物運送事業労働災害防止協会神奈川県支部
　　平塚分会事務局長
目 迫　公 雄　　東電同窓電気㈱ 総務部長
山 本　　勲　　県西地域産業保健センター コーディネーター

神奈川労働局長　団体賞

神奈川県木造家屋建築工事等災害防止協議会小田原地区会
戸田建設㈱横浜支店 利友会青年部

(3)　中央労働災害防止協会

①　緑十字賞

小 田 島　稔　　ＪＦＥスチール㈱東日本製鉄所
水 野　光 雄　　東急車輛製造㈱車両事業部
（全国産業安全衛生大会時　平成 22 年 10 月 6 日）

②　業種別最長無災害記録証

㈱日立製作所通信ネットワーク事業部	138,965,779 時間
東京ガス㈱根岸工場	14,485,123 時間
富士フイルム㈱神奈川工場小田原サイト	37,581,392 時間

③　中小企業無災害記録証

中井開発㈱	3,300 日（第 3 種）
㈱富士防	600 日（第 1 種）

④　全国ＴＨＰ推進協議会表彰

全国ＴＨＰ推進協議会　功労賞

若林　三津子　　医療法人社団こうかん会水江診療所 保健師長